

**シリーズ豊前市 SDGs とは？** “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

## 目標 13 「気候変動に具体的な対策を」 ~地球が深刻な状況にあることを知り、一人ひとりが考え取組むこと~

地球全体の気温や降水量などの変化のことを「気候変動」といいます。その気候変動の代表例が「地球温暖化」です。18 世紀、イギリスから始まった産業革命ですが、以来人類は石炭や石油などの化石燃料を燃やして文明を発展させてきました。その結果、大気中には二酸化炭素などの温室効果ガスが増えて地球が暖められてしまっています。1880 年を基準に 140 年間で地球の平均気温は約 1 度上昇し、このままだと 2050 年にはさらに 1 度上昇すると予測されています。このまま予測通りに気温が上昇すると「洪水の多発」や「食糧不足」などが発生することが予測され、また早急に具体的な対策を取らなければ、地球に生きている多くの種が「絶滅」し、更には地球上で人類が安全に暮らすことができなくなると言われています。二酸化炭素の排出量を減らして、温度化にストップをかけることは世界全体の問題です。2015 年には、世界の国々が一緒になって気候変動に取り組むこと「パリ協定」を約束しました。

(パリ協定…地球温暖化を防ぐために、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出について、2020 年以降の各国の取組みを決めた国際的なルール) 気候変動により世界では、熱波や干ばつ、集中豪雨、大型台風など、さまざまな自然災害が起っています。その影響は、農業や水産業、飲み水の確保、エネルギーなど、あらゆる分野に及び、私たちの暮らしに大きな影響が現れ始めています。日本でも、近年では、降雨量の増大や集中豪雨による洪水が発生したり、更に今後は水害の激甚化・頻発化が予想されます。これらの気候変動対策には、大きく分けると「緩和」と「適応」の 2 つの取組み方法があります。



## 豊前市の取組 | 防災・減災「流水治水」 豊前市内での水害を軽減させる取組み

緩和策は、地球温暖化の進行を止める(緩める)ための取組み、適応策は、気候変動の影響を回避・低減を図る取組みです。この適応策として、豊前市では流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」に取り組んでいます。具体的には、鈴子川水系にて大雨が予想される時、用水量の確保に留意しつつ、事前放流によるため池の水位低下を行うものであります。効果としてため池水位を低下させることで空き容量を確保し、雨水を一時的に貯留させ下流への流入量を抑制し洪水軽減効果を得るもので、防災面からも市民生活に重要な役割を果たしています。今後、流域治水に取り組むため池を増やし防災・減災に取り組んでいきたいと考えていますので関係者皆様のご協力をお願いします。

お問合せは 建設課 農林土木係 ☎82-8034

## SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例

目標 13 「気候変動に具体的な対策を」は「気候変動や影響を減らすための具体的な対策を考え、今すぐ行動する」ことを目指す重要な目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組みが紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。<わたしたちにもできること>



- (緩和策) ① 電気をこまめに消してムダな電気を使わない、再生可能エネルギーを利用すること
- ② 公共交通機関をできるだけ使うことやアイドリングストップを心がけること
- (適応策) ③ 災害に強いまちづくりや、一人ひとりの防災意識を向上していくこと
- ④ 自分の避難場所や避難場所までの行き方を確認すること、緊急時の連絡先を家族で決めておくこと

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)